

2020年度

事業計画書

2020年3月

学校法人 松山東雲学園

目次

1. 法人計画の概要

(1) 設置する学校等	1
(2) 入学者数等の計画	1
(3) 教職員数等の計画	2
(4) 役員・評議員数等	2

2. 事業計画の概要

(1) 主な事業	2
(2) 大学・短期大学	3
(3) 高等学校・中学校	8
(4) 附属幼稚園	10
(5) 附属保育園	11

3. 2020年度予算編成方針及び予算の概要

(1) 2020年度予算編成方針	12
(2) 2020年度予算の概要	12
資金収支計算書	14
事業活動収支計算書	15
事業活動収支の構成比率	17

1. 法人計画の概要

(1) 設置する学校等

- ① 松山東雲女子大学[開学年月:1992(平成4)年4月]
所在地 愛媛県松山市桑原3-2-1
学長 高橋 圭三
学部等 人文科学部 心理子ども学科[子ども専攻、心理福祉専攻]
人文科学部 国際文化学科
- ② 松山東雲短期大学[開学年月:1964(昭和39)年4月]
所在地 愛媛県松山市桑原3-2-1
学長 高橋 圭三
学科 保育科 現代ビジネス学科 食物栄養学科
- ③ 松山東雲高等学校[開校年月:1948(昭和23)年4月]
所在地 愛媛県松山市大街道3-2-24
校長 徳永 晴樹
課程等 全日制課程 普通科
- ④ 松山東雲中学校[開校年月:1947(昭和22)年4月]
所在地 愛媛県松山市大街道3-2-24
校長 徳永 晴樹
- ⑤ 松山東雲学園附属幼稚園[開園年月:1968(昭和43)年4月]
(2017年4月より松山東雲短期大学附属幼稚園から上記名称に変更)
所在地 愛媛県松山市桑原3-2-1
園長 小西 靖洋
- ⑥ 松山しなのめ学園附属保育園[開園年月:2018(平成30)年9月]
所在地 愛媛県松山市桑原3-2-1
園長 小西 靖洋

(2) 入学者数等の計画

2020年度入学予定者数・在籍予定者数

(単位:名)

部門	収容定員	在籍予定者数	入学(募集)定員	入学予定者数
大学	460	399	110	102
短期大学	500	473	250	241
高等学校	270	302	90	110
中学校	150	98	50	36
幼稚園	190	※194	—	—
保育園	19	16	—	—
計	1,589	1,482	500	489

※子育て支援保育(2歳児)を含まず

(3) 教職員数等の計画

① 専任教職員

ア 大 学:23名(学長1名、教授9名、准教授8名、講師4名、助教1名)

イ 短期大学:24名(教授11名、准教授6名、講師7名)

ウ 高校中学:35名(校長1名、副校長1名、教頭1名、教諭32名)

エ 幼 稚 園:12名(園長1名、副園長1名、教諭10名)

オ 保 育 園:3名(園長1名、副園長1名、保育士1名)

カ 事務職員:43名(大学・短期大学39名、高校・中学3名、幼稚園1名)

※昨年度と同様の人件費施策を勘案して設定

② 非常勤教職員

前年度実績等を勘案して設定

(4) 役員・評議員数等

① 理 事 長:小西 靖洋

② 理 事 数:11名(理事長及び外部理事3名含む)

③ 監 事 数:2名

④ 評議員数:23名

2. 事業計画の概要

(1) 主な事業

① 特別予算事業

【法人】

・学園 HP リニューアル ・減価償却引当特定資産・施設拡充引当特定資産への繰入れ

【大学・短期大学】

・本館-3-1 情報教室パソコンの更新 ・Microsoft Office 包括ライセンス料

・「国際事情研究」(ランガラ大学サマープログラム参加者補助)

・EXCEL アドインソフトエクセル栄養君 Ver.9.0 の導入

【高等学校・中学校】

・吹奏楽部楽器購入 ・グラウンドの土入れ

・四国大会、全国大会出場に係る費用補助(体育系クラブ・文化系クラブ)

【幼稚園・保育園】

・幼稚園バスのリース ・教材費等 ・研修会等旅費交通費

・園庭倉庫購入

(2) 大学・短期大学

大学・短期大学では、①教育の質保証、②学生支援、③キャリア支援、④図書・学術情報、⑤情報化、⑥入試、⑦広報及び⑧社会連携・地域貢献について示します。

①教育の質保証

ア. 共通カリキュラム

2019年度は開講科目の実施状況を検証するため、履修状況の分析と学生及び授業担当者の意見を集約した結果、開講の意義が概ね順調に達成されていることを確認しました。2020年度においても新規開講科目(2年次科目)を含めて、継続的な検証を行い、特色あるカリキュラム編成の充実を図りたいと思います。

イ. 科目ナンバリング制の導入

科目ナンバリング制とは授業内容や難易度などを番号等で示し、それぞれの科目の分野や履修レベルを明確にすることをいい、授業科目の順次性や体系性を構築し、教育体系の「見える化」を実現します。科目ナンバリング制を導入することで、各学科専攻における順次性のある体系的な教育課程を構築・確認することができ、カリキュラムの改善のきっかけとすることができます。教務部では、「ナンバリングの実施手引き」を作成し、それに基づき、各学科専攻においてカリキュラムマップと対応させながら、カリキュラムの点検・改善に向けた具体的な作業を行います。

ウ. ディプロマポリシー到達度評価シートの充実

2018年度のDP到達度評価シートの全学的な導入を出発点として、将来的にポートフォリオの充実化を図ります。2020年度は、引き続きDP到達度評価シートを学修ポートフォリオの一部として有効活用するとともに、その実施状況、履修指導での運用状況などについて検証し、今後の充実化につなげていきます。

エ. 成績評価基準の適正化と平準化

2018年度までの取り組みを踏まえ、2019年度はさらに「学生の成長」という観点から絶対評価を基本的な理念としつつ、2020年度は成績評価に関するガイドラインを作成します。具体的には、「秀」～「可」の位置づけを明示し、教員間の成績評価に対する認識の統一を図ります。また、適正な評価がなされているか、各科目の成績分布を公開し、組織的な事後確認を行います。

オ. シラバスの改善

2019年度は授業アンケートにて、学生が適正にシラバスを活用している状況が確認できました。2020年度はナンバリング制の導入を行うにあたり、シラバス様式の改善と研修会を実施します。

②学生支援

2020年度も前年度に引き続いて、きめ細やかな学生生活の支援を行います。具体的には、それぞれの学生が抱える心身の問題を保健室やカウンセリングルームとの連携のもとサポートします。また、学生会活動やクラブ活動、ボランティア活動などの更なる活性化を図ります。自転車・バイクの交通安全指導やバス通学生の車内マナーの向上についても引き続き努めます。桑原キャンパス全面禁煙に伴って、学生の禁煙サポート、禁煙教育を行い、キャンパス周辺や学内の定期巡回・清掃ボランティアを実施します。さらにカルト対策、SNSの使用における注意喚起等を徹底し、学生が安心して勉学に励めるよう支援していきます。

国際交流においては、外国人留学生への定期的な「留学生ガイダンス」や「国際交流フレンドシップ制度」活動の実施及び危機管理を意識した日本人学生の海外留学派遣(留学・語学文化研修)及び外国人留学生受入を引き続き実施します。

③キャリア支援

本学では、「キャリア」を職業を対象とした狭い意味だけではなく、より広い意味でとらえています。キャリアとは広く、学習や仕事、諸経験を通して築かれていく人生選択の道程であると言えます。長期間にわたるキャリアのすべてを一時点で計画することは難しいですが、自らがキャリアを切りひらいていく姿勢を身につけ、ライフステージの各段階で振り返りながら主体的に生きていくことができるように支援しています。少人数教育の本学だからこそできる支援体制も充実しており、アドバイザー、キャリア支援部、キャリア支援課の教職員が一丸となり連携をとりながら、学生一人ひとりのキャリア形成を学生たちに寄り添いながらきめ細やかに支援しています。そして、在学時はもちろんのこと、卒業後もキャリアアップや求人情報などの情報提供に努めています。以下のさまざまなプログラムに基づき学生一人ひとりを個別サポートしていきます。

ア. キャリア支援ガイダンス

キャリア支援ガイダンスは、就職活動が早期化する傾向の中で、それに対応できる日程・内容で実施し、随時就職情報を提供していくものです。現在、女子大学生は3年次の4月、短期大学生は1年次の4月のオリエンテーションからスタートしています。自己分析、目標設定、業界・職種研究、履歴書・自己PRの書き方、OGガイダンス、ビジネスマナー講座などを実施し指導します。

また、短期大学生を対象に基礎力測定ツールPROGを実施します。これは、人間力・教養・協働力・統率力・リーダーシップの分野について、今後受講者が何に力を入れたら良いかを示してくれるツールです。学生が客観的に自分を評価する指標として活用できるだけでなく、課題を強化するための就職支援・キャリア支援にもつながります。

イ. キャリアプログラム

キャリアプログラムは、できるだけ早い時期に職業観・就職観を確立させるとともに自分を知り、自分を見つめ、自分を高めるためのプログラムです。公務員を目指す学生のために「公務員ガイダンス」、「公務員必勝講座」、「公務員受験対策講座(基礎コース・応用コース)」、「公務員就職対策模擬試験」、「グループディスカッション対策講座」を順次実施します。一般企業への就職を目指す学生のためには「業界・しごと研究」、「好印象を与える就活メイクのポイント」、「筆記試験対策講座(SPI・一般常識)」、「合同企業説明会のまわり方」などを実施します。対象者を絞ったプログラムとして「基礎力強化講座(使える!基礎計算のマストレスン)」、「緊張しすぎる人のためのあがり症克服セミナー」、「フライトアテンダント作法」を実施し、きめ細かく個別サポートします。

また、「編入学ガイダンス」、「大学院ガイダンス」では、キャリアアップや専門的知識・考え方を深めたい学生のために、他大学から教員と進学した先輩を招き、大学の選び方から受験の仕方まで詳しく説明します。また、管理栄養士を目指す学生のために管理栄養士養成課程のある大学からも担当者を招いています。

ウ. インターンシップ

インターンシップを「在学中に自らの専門的な学びを基に、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として捉え、就業体験を通じて専門知識の深化と職業適性の自覚を目的に「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」が主催するインターンシップ・プログラムを活用します。また、短期大学の現代ビジネス学科では春季休暇中に「春季インターンシップ研修」を実施します。

エ. 「しのめプラス」(社会人講座)

「しのめプラス」(社会人講座)は、在学生、卒業生の「東雲力」を育成するために「学び直し」「学び直し」としての正課外学修を支援する講座です。さらに、本学の諸資源を地域社会に活かし、生涯学習を支援するための講座です。講座の内容としては、資格取得支援、語学、暮らしと創造、子育て支援、趣味・芸術、ビジネススキルなど多岐にわたっています。

※「東雲力」とは、自ら「考える力」、「挑む力」、「つながる力」、「やり遂げる力」の4つの力とそれぞれを形成する具体的な13の力から構成されています。

オ. 卒業後のサポート

卒業後も、それぞれの道でキャリアアップを続けている卒業生のために、教職員が積極的なサポートを継続します。本学の知的・人的資源を活かして本学及び地域社会のさまざまな活動に寄与することを目的として2017年に設置された「しのめ人財バンク」では、①就職希望がある卒業生への求人案内、②社会人入試・「しのめプラス」(社会人講座)の案内、③本学で開催される各種イベントの案内を実施し、卒業生をサポートしています。

④図書・学術情報

図書館では、学生の学修を支援するため以下のような取り組みを実施して、学生のためになる図書館を目指しています。2020年度は、学生のためになる選書を意識して効果的な図書館運営を目指します。

ア. 図書館の学修支援と利用促進

a ガイダンスの実施

(a) 新入生図書館オリエンテーション 4月～5月

(b) 文献検索ガイダンス 6月～適宜

b 企画展示

(a) 「学生生活応援図書」

(b) 「レポート・論文の書き方関連図書」

(c) 「前年度貸出・閲覧ランキング上位の本」

(d) 「文学賞・話題賞を受賞した本」

(e) 「クリスマス関連図書」

(f) 「人間力UPの本」

(g) 「ブックハンティングに行ってきました」

(h) 「季節のおすすめ絵本」(附属幼稚園とのコラボ企画:年5回)

c 図書館内で利用可能なノートパソコンの貸出

d ラーニングコモンズ利用予約情報の提供

e ポイントカードの実施

f 試験期間中の開館延長

イ. 学生のためになる選書の実施

a 継続購入図書を見直し、希望購入図書を中心に主体的な選書を実施

b シラバスに紹介されている参考図書を積極的に購入し、学修をサポート

c ブックハンティングを年2回実施

d 各学科・専攻において購読している学術雑誌の見直し

ウ. 紀要・研究論集の公開

2011年度から愛媛地区大学図書館協議会参加校で連携している組織「IYOKAN」において、本学の紀要・研究論集等を引き続き公開します。

⑤情報化

図書館・情報メディアセンターでは、学内の情報システムに関連した様々な業務を取り扱っています。情報システムについては年次計画を策定し計画的に更新を行うことで、学生・教職員の利便性の向上、セキュリティの維持に努めています。

ア. 情報教室

- a 本館情報教室のPCを更新
- b 授業に支障がないよう設備の維持管理の実施
- c Windows 10に対する年2回のアップデート作業の実施

イ. 学内ネットワーク

- a 学生用Wi-Fiの接続環境改善の実施
- b 老朽化したネットワーク機器の更新を検討

ウ. 業務システム

- a 事務用PCを計画に基づいて更新
- b 業務システムに蓄積されたデータ活用の検討
- c 次期システム更新のための検討を開始

エ. サーバー

- a Moodleのバージョンアップを実施
- b CentOS 7以前のバージョンで稼働しているLinuxサーバーをCentOS 8に順次移行

オ. 情報セキュリティ

- a 学内ネットワークに接続する全ての端末調査の実施

⑥入試

2020年度は、「大学入試改革」や「高等教育無償化」などさまざまな制度がスタートします。本学では20年前から導入しているAO入試が国公立大学においても重視されるようになり、本学を取り巻く学生募集環境は益々厳しくなります。

2021年度入試における本学の新入試制度については、選抜方法等の変更情報を高校現場にいち早く、よりわかりやすく周知し、2021年度入試において混乱がないように努めます。また、高校3年生だけでなく低学年層及びその保護者等々、一人でも多くのステークホルダーに『東雲の魅力』を発信し、東雲のファンを増やす努力を継続します。具体的な活動計画は次のとおりです。

ア. 広報活動(対象:高校生・保護者)

- a ホームページの充実
- b SNSを利用した広報の充実
- c 大学案内の充実

イ. オープンキャンパス・大学見学会(対象:高校生・保護者・社会人)

- a 各学科・専攻の魅力の発掘・アピール
- b 保護者相談会の充実

c 社会人対象オープンキャンパスの充実

ウ. 進学ガイダンス・出張講義(対象:高校生・高校教員)

a 学生募集重点エリアの拡大

b 高校生との直接対面重視

エ. 高校訪問(対象:高校教員)

a 入学者選抜方法の周知徹底

b 無償化制度を含めた本学オリジナル奨励金制度案内

c 在学生、卒業生の情報提供

d 高大接続に繋がる関係構築

⑦広報

本学広報では、大学・短期大学の教育・研究等に関わる事項及び諸行事について広く学外に周知することで、学生募集に寄与します。学園ホームページ委員会、教職協働協議会、入試課、情報メディアセンター等の学園内組織と連携し、社会情勢の変化に対してアンテナを張り広報活動に努めます。また、2019年度着手したホームページの全面リニューアルにも関わり、2020年4月に公開した後も引き続きその運営に協力し、効果的な広報活動を展開していきます。

学生募集以外の広報企画については、関係部署からの提案をベースに毎年予算折衝の際に企画内容、費用対効果を検証し総合的に判断します。

学園を通じた広報展開に際しては、学園経営企画委員会に上程することで、全学園的、経営的な観点での協議の機会を得ています。なお、それら調整は事務局が担います。

⑧社会連携・地域貢献

社会連携・地域貢献については、地域の自治体や企業等との連携を密にし、地域に貢献できる大学となるため社会連携活動等を展開していきます。

2020年度は、以下の事業を計画しています。

ア. 社会連携

a 愛媛県・松山市・愛南町等との包括協定に基づく連携事業の促進

・地方自治体・地元産業界等との包括連携協定の促進

b 産官学連携事業の拡充・促進

・研修会・講演会等への講師派遣

・各種審議会等への委員派遣

イ. 地域貢献

a 桑原地区まちづくり協議会との連携

b 地域密着型の大学・短大として協働を推進

(3) 高等学校・中学校

2020年度は、中長期計画における基本方針である①「授業力の向上」、②「生徒の可能性を広げる進路指導」、③「豊かな人間性の育成」、④「大学理解の機会提供」、⑤「学校生活の満足度向上」、⑥「選ばれる学校づくり」を6本の柱として、女子教育を軸とした「一人一人の夢をかなえる」指導を強力に推進します。また、サタデースクールを学校改革の起爆剤とし、それにより働き方改革を実行します。

①授業力の向上【教科指導の充実】

ICT環境を整えながら、iPadを活用した授業や特別活動が充実してきました。こうした環境の下で、「主体的・対話的で深い学び」の趣旨に沿った授業実践を行うため、教員の授業力の向上を目指します。

また、一人一人を大切にす指導を推進するために特別支援教育を拡充します。

- ア. ICT教育の展開 (iPadを活用した分かる授業の研究やiPadを利用した小テストの実施)
- イ. 研究授業・授業研究の改善 (全教員による研究授業の実施と5回以上の授業参観、「自己評価シート」と「授業評価シート」を用いた授業研究、校内初任者研修の充実)
- ウ. 生徒による授業評価の活用 (年2回)
- エ. 特別支援教育の充実 (特に、高校における特別支援教育の強化、愛媛大学等と連携してのケース会議の継続、特別支援コーディネーターの指名と組織強化、個別の指導計画の作成)
- オ. 校内情報セキュリティ対策の強化
- カ. 2023年度に向けて、生徒一人一台のPC利用に対応するソフト・ハード面の準備

②進路指導【生徒の可能性を広げる進路指導】

2020年度から教育課程を月曜から金曜までの週5日で編成し、新たに個々の「主体的・対話的で深い学び」を支援することを目的として、土曜日の活動(サタデースクール)をスタートさせます。

2021年度入試から実施される「大学入学共通テスト」に対応するには、読解力・発表力・表現力の育成が不可欠であることから、本校の教育活動全般を通して、これらの力を育成するためのプログラムについて検討します。また、キャリア教育を系統的に推進します。

- ア. 「総合的な探究の時間」に対応した教材である“ENAGEED”を用いて授業を実施(高校生を対象に週1時間実施。自ら問題を見つけ、協働して探求していこうとする学習活動を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現)、併せて大学の出張講義も行います。
- イ. 6か年を見通した進路指導計画、キャリア教育の構築(中2はロープウェイ街や近隣の職場体験、中3は伊予銀行での職場体験、高1は秘書検定受検、高2は近隣の大学訪問、高3の進学希望者は志望大学へのオープンキャンパス参加、就職希望者はハローワークやジョブカフェ愛ワークの説明会への参加)
- ウ. 読解力・発表力・表現力育成のプログラム実施(校内弁論大会、クローバーデー、スプリングフェスティバルにおけるブックトーク等を利用しての発表力の育成)
- エ. 英語力向上への取り組み(GETECや英語検定対策の強化、各種スピーチコンテスト、英語キャンプへの参加)
- オ. 進路指導委員会の充実によるきめ細かい進路指導(AO入試、公募推薦の研究と活用、指定校推薦における選考規準の見直し、各生徒のポートフォリオ作成の準備)

③部活動等の活性化【豊かな人間性の育成】

部活動は技術や技能の向上だけでなく、生徒の心身にわたる成長と豊かな学校生活の実現に大きな役割を果たしています。このような観点から、安全かつ効果的な指導を目指すとともに、体罰等の不祥事の根絶に万全を期します。

- ア. 県代表、四国代表となる部活動を育成し、全国大会での入賞を目指す。
- イ. 本校にない部は同好会を作らせるなど、生徒の自発的な活動への助言や支援を行う。
- ウ. 女子力向上プログラム(部に類する活動への補助事業)の強化に努める。
- エ. 部活動における体罰等ハラスメントの防止の徹底

④高大連携【大学理解の機会提供】

松山東雲女子大学・短期大学との連携を中心に、来年度から成城大学とも情報を交換しながら、大学、短大への理解を深めさせます。

これを基盤として、自らの進路開拓に対する意欲を喚起させます。

- ア. 松山東雲女子大学・短期大学の良さや強みを理解させることで入学者数を確保
- イ. 高校3年生進学コースで松山東雲女子大学教員及び・短期大学教員の出張講義を実施(年間15回以上の実施)、来年度からは高校1、2年生にも講義の枠を広げます。
- ウ. 高校2年生の愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・短期大学への学校訪問(11月実施)
- エ. 高校1年生全員の秘書検定受検と短期大学教員による対策講座の開講(12月、1月実施)

⑤学校経営【学校生活の満足度向上】

卒業時に「入学してよかった」と言ってもらえるような信頼される学校づくりを推進します。そのため、学校評価を軸としたPDCAサイクルを機能させます。また、女子教育を軸とする東雲ブランドを構築するため、女子校ならではの大会やコンテストに積極的にチャレンジさせます。

- ア. 数値目標設定及び学校評価、学校関係者評価委員会の提案に基づく学校経営の改善
- イ. 女子校ならではの体育祭、クローバーデー、スプリングフェスティバル等の学校行事の開催
- ウ. 中学の「総合的な学習の時間」で茶道(1年)、華道(2年)、お琴(3年)の授業を実践
- エ. 中学の保健体育に授業で他校にない「なぎなた」を実施
- オ. 様々な大会やコンテストへの個人やグループ(部、同好会)でのチャレンジを支援

⑥生徒数の確保【選ばれる学校づくり】

松山東雲中学・高校の学校としての良さ、生徒の良さを知ってもらいます。そのため、効果的な情報の発信に努めるとともに、広報活動を一層強化していきます。

- ア. 学校案内の冊子・オープンスクール等で本校の特色をアピール
- イ. 魅力あるホームページ(「校長室便り」「今日の東雲」等)の充実
- ウ. 小学校・中学校・塾訪問の強化
- エ. PTA・同窓会・地域社会・地元企業と連携して「門前まつり」等の魅力ある行事への積極的参加

(4) 附属幼稚園

1968年4月に「松山東雲短期大学附属幼稚園」として開園、2017年3月に新園舎での生活を始め2020年度は、「松山東雲学園附属幼稚園」として4年目、過去最高の230名を超える園児が生活をします。2018年4月に「幼稚園教育要領」が改訂施行し、小中高の教育へつながる18歳までを見通して「育むべき力」が明確化されました。その一つに「幼児の自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整え、人の資質・能力を育む」大切さが示されました。本園が大切にしている保育方針が認知され始めたように思います。また、2019年10月から幼児教育・保育の無償化が始まりました。そのことで子育て世帯は保育料等の負担が軽減され、保育ニーズが高まり低年齢化や長時間保育の希望が増えました。現場では業務負担の増加や事務の煩雑さが見られます。こうした中、今後も選ばれる園として質の高い実践をしなければなりません。

2020年度は以下のことに重点を置き取り組みます。

①教職員の人員構成の充実

- 契約から定年制への移行
- 正規雇用による教諭の確保
- 事務職員の増員
- 園児数に応じたサポート体制の確立(複数担任)
- 預かり保育への定年制教諭の配置と臨時職員の確保
- 働きやすい職場づくり

②教職員の質の向上

- 話し合いや勉強会の積み重ね・研修会への参加
- 業務分担による様々な経験
- 預かり保育:指導計画の充実及びPDCAサイクルの実施、職員会への参加
- 各施設(保育園・たんばぼ・大学/短大)との連携

③子ども自身が「遊びを生み出す」環境づくり

- 四季折々の草花や野菜を育てる。
- 虫や生き物、小動物に触れ合うことができる環境
- 砂・土・水・粘土・えのぐ等の素材体験がたっぷりできる環境
- 興味関心を広げる、園外保育の実施や学内の施設の活用

④子どもと保護者との信頼関係づくり

- 一人一人との丁寧なかかわり
- 子どもの姿と育ちをとらえ、保護者に伝える。
- 安全な園生活の確保
- 新制度や無償化による保護者の求めるものの把握
- 預かり保育料見直しによる利用者数の把握

(5) 附属保育園

開園して一年半程たち、2020年1月に19名の定員を満たしました。子どもたち一人ひとりが安心して生活できるよう、個々の育ちや課題を職員間で共有し、必要な環境を保育士みんなで考え徐々に整ってきました。その中で、10月に開始した保育料等無償化に伴う園児の幼稚園への移動、保育士の働きやすい環境などの課題が見えてきました。それらを踏まえ、2020年度は以下の内容を計画しています。

① 園児の生活環境

2020年度4、5月は、2歳児クラスが8名、1歳児クラスは6名、0歳児クラスが2名の予定です。0、1歳児は2018・2019年度に5月以降の問い合わせがあったことを考えると今年度も随時入園する子どもがいると予想されますが、2歳児は、幼稚園満3歳児の保育料無償化が大きく影響していると思われ、9月に5名が附属幼稚園の満3歳児クラスへ移行する予定で、3名が3月末まで保育園に残ります。こうした年齢別の園児数の変動に伴い、クラスの人数、保育室内での安全性、活動、成長、交わりを考えながら、子どもたちの経験が豊かになり、安定して遊べるよう工夫が必要と考えます。また、昨年9月に園庭ができ、今後戸外での活動をさらに充実させていきます。

② 保護者の動向など

2019年度は延長保育を利用する方は少なく、保育時間は保護者のニーズに対応できているようです。今後の入園児や保護者の働き方の変化によって延長保育の利用状況は変わってくるものと思います。上記①の無償化の影響もあり2歳児の保護者のニーズへの対応も今後の課題といえます。9月に転園する園児に企業枠の子どもが多いので、今後の新入児に働きかけ連携先を確保していく予定です。

③ 保育及び保育士の質の向上

2020年度も保育内容や安全などに関する研修会等に参加し、保育士間で情報を共有していきます。園内では職員同士で事例を出し合い、専門の先生に助言をいただきながら勉強会を続け、一人ひとりの保育理論や技能も高めていきます。

3. 2020年度予算編成方針及び予算の概要

(1) 2020年度予算編成方針-経営判断指標「A3段階」を必達目標とする-

①収入予算

ア 学生生徒園児を確保する。

α 大 学:入学者 110 名 b短期大学:入学者 275 名 c高 校:外進生 120 名

d 中 学:入学者 43 名 e幼 稚 園:総 数 188 名 f保育園:総 数 15 名

②支出予算

ア 予算申請にあたっては、中長期計画を視野に入れたものとする。

イ 2019年10月より消費税率が8%から10%に増税されるが、予算は、前年度の範囲内とする。

ウ 継続事業については、必要度及び費用対効果等を再度検証し直す。なお、新規事業については、前年度までの予算の組み替えを前提とする。

エ 重点事業(学内外から高く評価されることが見込まれる諸施策[教育力の向上・魅力ある教育プログラム・学生募集の有効策等])については、予算折衝により重要性・緊急性を考慮し効果を見極めて決定する。

※1 予算編成時において想定のできない突発的な事業については、必要度及び費用対効果等を勘案し、予備費の範囲内で対応する。

※2 本学園の積立率は、全国の大学法人の平均と比較すると大幅に低い状況にある。当面の目標としては、耐震化事業前(2015年度)の35%を目指す。

(2) 2020年度予算の概要

①資金収支予算の概要

ア 資金収入

学生生徒等納付金収入は366万円増の10億5,291万円を計上しています。手数料収入は、前年度と同額の1,519万円を計上し、寄付金収入は217万円減の737万円を計上しています。

補助金収入は、6,523万円減の3億8,316万円を計上しています。その主な要因は、大学・短大の学生納付金収入に対する教育研究経費支出及び設備関係支出の割合等の増減率の影響による経常費補助金の減少、並びに幼稚園の保育料無償化に伴い就園奨励費補助金が廃止され、施設等利用給付費(学生生徒納付金収入)が新設されたものによるものです。付随事業・収益事業収入は810万円増の5,235万円を計上し、受取利息・配当金収入は、94万円増の1,828万円を計上しています。雑収入は、前年度予算は定年退職者と自己都合退職者を合わせて計上していましたが、2020年度は定年退職者の退職金財団交付金のみ計上しているため、4,809万円減の7,330万円を計上しています。

前受金収入は1,871万円増の2億3,492万円を計上しています。その主な要因は、2020年度入学者予想数に基づいた設定によるものです。その他の収入は2億5,735万円減の1億2,489万円を計上しています。その主な減額の要因は、A館建築等に関する補助金が前年度に計上されたことによるものです。資金収入調整勘定は3,063万円減の3億326万円を計上しています。その主な要因は、年度をまたいで納入のある退職金財団交付金の減少によるものです。

以上により、資金収入合計は、1億4,275万円増の27億8,903万円の計上となりました。

イ 資金支出

人件費支出は4,218万円減の9億2,576万円を計上しています。その主な要因は、定年退職者の退職金のみを計上していることによるものです。教育研究経費支出は1,848万円減の3億1,631万円を計上しています。その主な要因は、前年度に実施した桑原キャンパス構内改修工事等に要した修繕費支出2,012万円減等によるものです。管理経費支出は823万円減の7,118万円を計上しています。その主な要因は、前年度に実施した人事管理システム再構築等に要した報酬・委託・手数料支出237万円減、入試広報費用等の見直しに伴う雑費支出272万円減等によるものです。借入金等利息支出は59万円減の388万円を計上し、借入金等返済支出は前年度予算と同額の2,844万円を計上しています。

設備関係支出は459万円増の1,442万円を計上しています。その主な要因は本-3-1情報教室パソコン更新等に伴う教育研究用機器備品支出530万円増、前年度に実施した事務局パソコン購入等に要した管理用機器備品支出56万円減等によるものです。

資産運用支出は1億5,746万円増の1億9,674万円を計上しています。その主な要因は、前年度の減価償却額の増加に伴う減価償却引当特定資産への繰入746万円増及び今年度より実施予定の施設拡充引当特定資産への繰入1億5,000万円増によるものです。その他の支出は69万円減の489万円、予備費及び資金支出調整勘定は前年度予算と同額を計上しています。

以上により、収入の部合計から前年度繰越支払資金を差し引いた実質的な資金収入合計額16億5,913万円に対して、支出の部合計から翌年度繰越支払資金を差し引いた実質的な資金支出合計額16億674万円の計上となり、翌年度繰越支払資金は5,238万円増の11億8,228万円となる見込みです。

②事業活動収支予算の概要

ア 事業活動収支

事業活動収入は15億8,435万円、事業活動支出15億6,810万円で基本金組入前当年度収支差額は1,625万円の収入超過となる見込みです。現金の動きを伴わない基本金組入により当年度収支差額は1,278万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は39億2,121万円の支出超過となる見込みですが、学園の運営において特に問題はありません。

イ 事業活動収支の区分別収支

学校法人の本業である教育活動収支は、教育活動収入15億6,507万円、教育活動支出15億1,422万円で、教育活動収支差額5,085万円の収入超過となる見込みです。教育活動外収支は、教育活動外収入1,828万円、教育活動外支出388万円で、教育活動外収支差額1,439万円の収入超過となる見込みです。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は6,525万円の収入超過となる見込みです。また、経常収支差額比率は4.1%となり、2020年度予算編成方針に基づく必達目標である経営判断指標A3段階(経常収支差額が3か年のうち2か年以上の黒字)を達成する見込みです。特別収支は、特別収入100万円、特別支出0円で特別収支差額は100万円の収入超過となる見込みです。

ウ 前年度予算との比較

事業活動収入は8,636万円減少しています。その主な要因は資金収支予算と同様の内容で、経常費補助金収入6,523万円減、及び退職金財団交付金等雑収入3,165万円減によるものです。

事業活動支出は4,833万円減少しています。その主な要因は人件費2,000万円減、教育研究経費1,960万円減によるものです。

資金収支計算書

2020年 4月 1日から
2021年 3月 31日まで

(単位:千円)

収入の部					支出の部				
科目	予算	前年度予算	増減	備考	科目	予算	前年度予算	増減	備考
学生生徒等納付金収入	1,052,912	1,049,249	3,663		人件費支出	925,760	967,943	△ 42,183	定年退職者の減少(定年退職者4名)
手数料収入	15,194	15,191	3		教育研究経費支出	316,311	334,791	△ 18,480	桑原キャンパス構内改修工事費の減少
寄付金収入	7,370	9,549	△ 2,179		管理経費支出	71,186	79,423	△ 8,237	人事管理システム再構築費用の減少、入試広報費用の見直し
補助金収入	383,167	448,397	△ 65,230		借入金等利息支出	3,883	4,480	△ 597	大学・短大経常費補助金の減少、就園奨励費の廃止
資産売却収入	0	0	0		借入金等返済支出	28,440	28,440	0	
付随事業・収益事業収入	52,355	44,253	8,102		施設関係支出	0	1,506	△ 1,506	社会人委託生の増加
受取利息・配当金収入	18,280	17,340	940		設備関係支出	14,422	9,827	4,595	本-3-1情報教室パソコン更新費の増加
雑収入	73,300	121,399	△ 48,099		資産運用支出	196,743	39,276	157,467	退職金財団交付金の減少(定年退職者4名)
前受金収入	234,926	216,208	18,718		その他の支出	4,892	5,583	△ 691	施設拡充引当特定資産への繰入の実施
その他の収入	124,895	382,245	△ 257,350		[予備費]	50,000	50,000	0	2020年度入学者予想数で設定
資金収入調整勘定	△ 303,268	△ 333,899	30,631		資金支出調整勘定	△ 4,892	△ 4,892	0	前期末未収入金収入の減少
前年度繰越支払資金	1,129,900	676,345	453,555	①	翌年度繰越支払資金	1,182,286	1,129,900	52,386	②
収入の部合計	2,789,031	2,646,277	142,754		支出の部合計	2,789,031	2,646,277	142,754	
					支払資金の増減額	52,386	453,555	△ 401,169	②-①

事業活動収支計算書

2020年 4月 1日から
2021年 3月 31日まで

(単位:千円)

		科 目	予 算	前年度予算	増減	備考	
教育活動収支	事業活動収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金	1,052,912	1,049,249	3,663		
		手 数 料	15,194	15,191	3		
		寄 付 金	6,370	7,710	△ 1,340		
		経 常 費 等 補 助 金	383,167	448,397	△ 65,230		
		付 随 事 業 収 入	52,355	44,253	8,102		
		雑 収 入	55,080	86,739	△ 31,659		
		教 育 活 動 収 入 計	1,565,078	1,651,539	△ 86,461		
	事業活動支出の部	人 件 費	894,021	914,027	△ 20,006		
		教 育 研 究 経 費	545,254	564,857	△ 19,603		
		管 理 経 費	74,945	83,071	△ 8,126		
		教 育 活 動 支 出 計	1,514,220	1,561,955	△ 47,735		
			教育活動収支差額	50,858	89,584	△ 38,726	①
	教育活動外収支	事業活動収入の部	受 取 利 息 ・ 配 当 金	18,280	17,340	940	
			教 育 活 動 外 収 入 計	18,280	17,340	940	
事業活動支出の部		借 入 金 等 利 息	3,883	4,480	△ 597		
		教 育 活 動 外 支 出 計	3,883	4,480	△ 597		
		教育活動外収支差額	14,397	12,860	1,537	②	
		経常収支差額	65,255	102,444	△ 37,189	③(①+②)	
		経常収支差額比率	4.1%	6.1%	△ 2.0%		

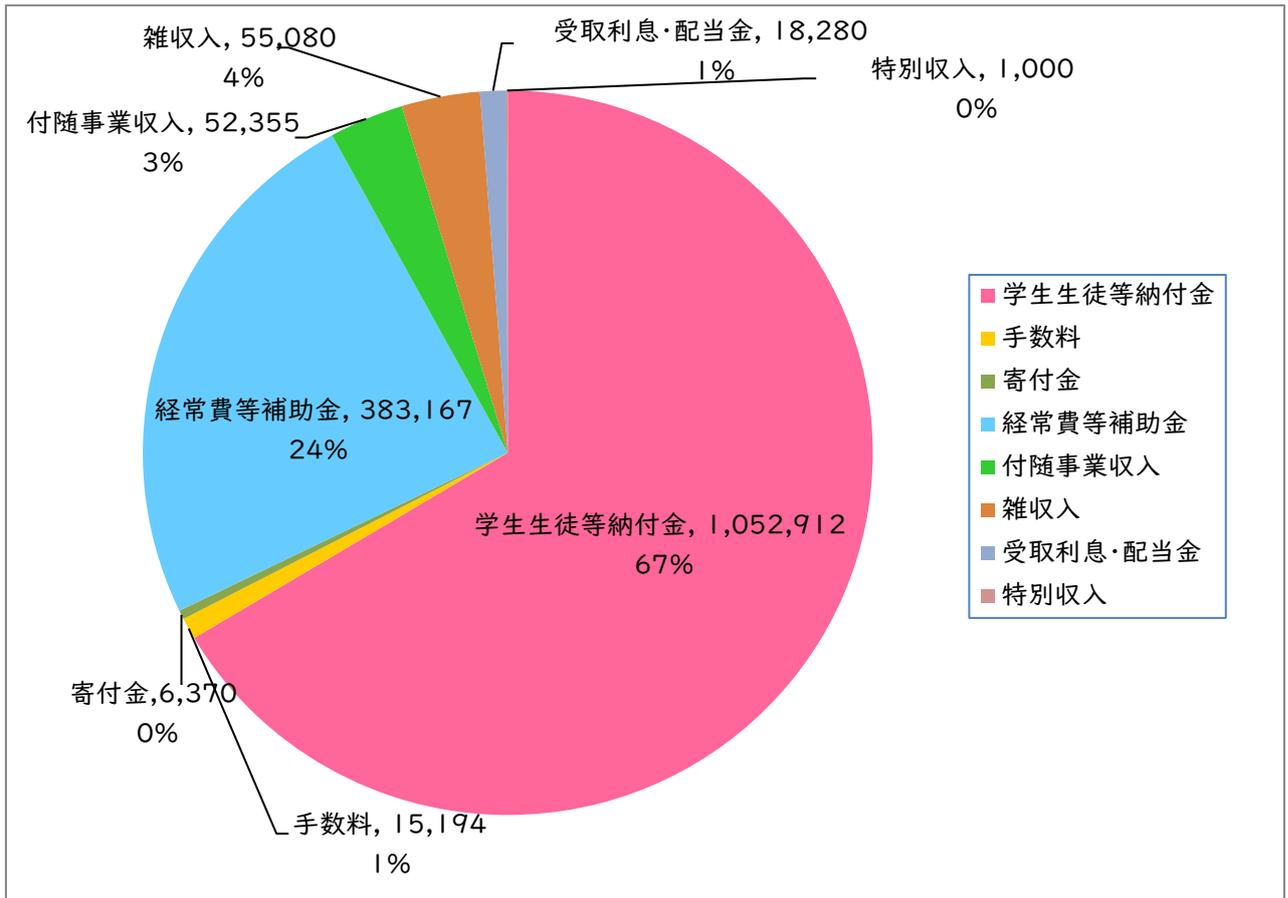
	事業活動収入の部	科 目	予 算	前年度予算	増減	備考
		資 産 売 却 差 額	0	0	0	
	そ の 他 の 特 別 収 入	1,000	1,839	△ 839		
	特 別 収 入 計	1,000	1,839	△ 839		
特別収支	事業活動支出の部	資 産 処 分 差 額	0	0	0	
		そ の 他 の 特 別 支 出	0	0	0	
		特 別 支 出 計	0	0	0	
	特別収支差額	1,000	1,839	△ 839	④	
[予 備 費]	50,000	50,000	0	⑤	
基 本 金 組 入 前 当 年 度 収 支 差 額	16,255	54,283	△ 38,028	⑥ (③+④-⑤)		
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 29,043	△ 30,431	1,388	⑦		
当 年 度 収 支 差 額	△ 12,788	23,852	△ 36,640	⑧(⑥+⑦)		
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	△ 3,908,423	△ 3,932,275	23,852			
基 本 金 取 崩 額	0	0	0			
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額	△ 3,921,211	△ 3,908,423	△ 12,788			

(参考)

事 業 活 動 収 入 計	1,584,358	1,670,718	△ 86,360	
事 業 活 動 支 出 計	1,568,103	1,616,435	△ 48,332	

事業活動収入15.8億円の構成比率

(単位:千円)



事業活動支出15.6億円の構成比率

